

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前：菅原 万瑠

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

今回の中国への派遣事業では、個人旅行や旅行会社のツアーではできないことをたくさん経験でき、学びが多かった。そもそも、年齢や出身地の違う方々と一週間も交流できたことが新鮮で、それだけでもこの事業に参加してよかったと心から思う。また、団長さんや王さんをはじめ、多くの方たちのおかげで快適に滞在することができた。感謝の気持ちでいっぱいである。

滞在期間中には様々な経験をした。その中でも印象に残ったことは、世界的に有名な陶磁器の生産地である景德镇と、中国の方々との交流である。

私は元々焼き物に興味があるので、景德镇に行くことができると知ったとき大変嬉しく思った。日本の伊万里焼や、ドイツのマイセン焼などのヨーロッパの焼き物や絵柄に大きな影響を与えた景德镇の歴史を学ぶことができると思ったからだ。

実際、景德镇では、中国陶磁博物館、陶陽里御窯地区、景德镇陶磁技術師学院、陶源谷、陶溪川クリエイティブストリートなど、陶磁器について学ぶことができる場所を何件も訪問することができた。博物館や陶陽里御窯地区では、外事弁の姫さんやガイドさんが歴史を解説してくれたり、私の質問に答えてくれたりしながら鑑賞することができたので、大変理解が深まった。私は、景德镇の陶磁器といえば、白地に青の染付をする青花の印象が強かった。しかし、現地に行くことで、唐代から現代まで様々な絵柄があり、時の皇帝の好みによって違いが出るということが分かった。どの時代のもものもそれぞれ美しく、古い時代のもものも洗練されている。景德镇陶磁技術師学院で陶磁器体験をして難しさを体感した後だったので、技術力の高さをより実感できたと思う。

古い焼き物もちろん美しいのだが、現代の焼き物も進化していて、別の良さがある。陶源谷に店を構えるブランドの陶磁器は、現代的なデザインだったり、ドラえもんとかコラボしていたり、伝統を守っているだけではないということが分かった。これからも新しい陶磁器がたくさん生まれるのだろうと思うと楽しみである。

中国の大学生との交流も、大変良い刺激になった。学生たちがあまりにも日本語を流暢に話すので、何故なのか訊いてみると、中国の大学入試の外国語科目で日本語を選択することができるということを知った。現地の大学生と会話しなかったら分からないことを知ることができた。こういうのが旅の醍醐味だと思ってしまう。

今回、中国の歴史的な場所や、博物館にたくさん行くことができて、大変勉強になった。そして、現地の方々と交流し、温かく接してくれて大変嬉しかった。言葉が通じない方とも気持ちで通じ合えたと感じる。

中国の歴史や文化について学んだことと、親切な方々との思い出を、中国本土に行ったことがない方たちに伝えていきたい。私の周囲の人たちからでも、中国について正しく認識しようとする人が増えてほしい。